



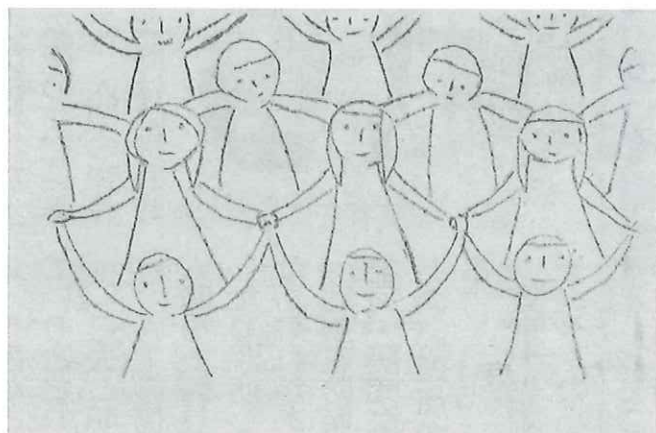
あじさいⅡ



鹿角手をつなぐ親の会

情報誌

令和2年1月・第26号



「手をつなぐ」

絵・皆川明



令和の初春を寿ぎ

皆様のご健康とご多幸をお祈りいたします
本年もどうぞよろしくお願い申し上げます

赤い羽根 共同募金

「支え合い」の輪広がる

初日、鹿角
小坂でも 街頭募金で善意呼び掛け

◀よねしろ新報
10月2日(水)

素敵な笑顔で
善意の協力と呼びかける
当会会員の成田さん(中)
豊口さん(右)

赤い羽根共同募金運動は1日、全国一斉に始まり、鹿角市や小坂町でもスーパー前などで街頭募金が行われた。買い物客らは、「ご協力お願いします」の呼び掛けに、募金箱に善意を入れ、赤い羽根を受け取っていた。

「助け合い、思いやり、しあわせ」のシンボル・赤い羽根共同募金は、全ての人が安心して、充実した生活を送るために、お互いに助け合おうとの趣旨で1947年に始まった。募金は各都道府県を単位として集められ、社会福祉施設の整備や社会福祉団体の事業費、住民参加のボランティア団体の活動費など民間の社会福祉に使われる。本県の今年度のキャッ

チコピーは「令和へと受け継ぎ つながる赤い羽根」。県共同募金会、各市町村共同募金委員会、自治会、学校などへの協力を求める。

運動初日、鹿角市では花輪のいとく花輪駅前店で共同募金運営委員、花輪女性ボランティア、社福協の職員10人が参加。買い物客に「共同募金に協力を」と呼び掛け、募金者には胸に赤い羽根をつけた。また、募金に協力した子どもたちには風船やバッジをプレゼントした。

同市では、この後も馬内市日(2日)、花輪市日(3日)、大湯市日(4日、道の駅おおゆ)、いとく鹿角ショッピング



赤い羽根共同募金がスタート(いとく花輪駅前店で)

国の障害者意識は？

昨年12月5日秋田市で開かれた恒例の障害者支援事業合同協議会の交流会で兎澤会長（県育成会副会長）が開会の挨拶をした。

このなかで、当日のさきがけ新報の記事を紹介しながら、

国政の最高責任者が障害を持つ者の人格を否定し、差別をした。さらには障害者の人間としての尊厳を踏みにじった。

昨年は国の殆どの省庁が障害者の雇用数を水増ししてデタラメな雇用率を報告。しかも、こうした水増しは数十年も疑問をもたずに引き継がれてきたという。

これが、首相をはじめとする国の障害者に対する意識であり、姿勢である。

令和の時代は、障害をもつ者も街の中で安心して堂々と生きていけるように・・・

差別や虐待を無くし、彼らの権利を守るために、施設関係者も保護者もワンチームとなって連携していくよう呼びかけた。

令和最初の 新年会をやります

「令和2年新年会」を1月下旬にやる予定です。

簡単なレクゲームやビンゴゲームのほか恒例のカラオケ大会に沢山の賞品を準備しますから、誘い合って参加されるようお待ちしておりますのでスケジュールに入れておいてください。

日時、会場、参加費などは追ってお知らせします。

桜を見る会

今年4月に開催された「桜を見る会」の招待者名簿を巡り、安部晋三首相が「廃棄したの

のために資料提出を求めた当日だった。

9日に廃棄したと説明。共産党議員が国会質問

したの障害者雇用の職員だった」と国会で答弁した。廃棄まで1カ月近くかかった経緯として説明し、野党議員が資料請求した当日だった。不自然さへの追求をかわそうとしたが、障害という個人の属性に言及する形での釈明に、当事者団体や専門家などからは「弱者を利用した」「最悪の言い訳」との批判が続出している。

4月13日に開催された会の名簿について内閣府は、5月

野党が「証拠隠滅だ」と非難する中、首相は今日2日の参院本会議で「シミュレーター」の空き状況や、担当である障害者雇用の短時間勤務職員の勤務時間等と調整を行った結果、使用予定日が5月9日となった」と答弁。その上で「予定通り廃棄したもので、野党議員からの資料要求とは全く無関係」と強調した。菅義偉官房長官も記者会見で、障害という属性を持ち出して説明した。

首相「弱者利用した」 当事者団体批判



2日の参院本会議で答弁する安倍首相

徳代表は「雇用水増しや旧優生保護法の被害者救済など、首相には障害者の問題にもっと向き合ってほしいと感じてきたが、こういう形で言及されるのは、言い訳しやすいと考えたのだろうか」と違和感を示す。知的障害者の親らでつくる「全国手をつなぐ育成会連合会」の久保厚子会長も「廃棄すると誰がどう判断したかが問題のはずだ。本質をつた」。

首相「名簿廃棄は障害者雇用職員」

「ぼかすための説明だと思ってしまおう」と語る。筋萎縮性側索硬化症（ALS）の当事者で、れいわ新選組の船後靖彦参院議員は「職員の弱い立場を利用したとも受け止められる内容で、残念だ」と見解を発表。元パライピック選手で車いすを利用する国民民主党の横沢高徳参院議員も「障害者が関わったから仕方ないと国民に思わせられたのか」と批判した。

「職員個人の属性の問題ではない。廃棄のタイミングについて、何とか言いつくろうために持ち出したのだろう」。公文書管理に詳しい右崎正博独協大名誉教授（情報法）はこう指摘した上で、文書管理の在り方自体を見直すべきだと語る。

「桜を見る会」は招待者数と予算が年々膨れ、各界の功績者を慰労するという趣旨もあいまいになった。事業の検証と改善に必要となる文書をさっさと廃棄することは問題だ。公の利益を考慮すれば、政府は招待者のプライバシーを盾にせずにきちんと開示するべきだ」